

社会－9（公民的分野） 知識を活用して特色を説明し、さらに自分の考えを論述する事例
【学習活動の概要】

<p>1 単元名 世界平和の実現を目指す国際社会と日本</p>															
<p>2 単元の目標 国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現を目指す国際社会の在り方や、我が国の国際貢献の在り方に関して、主体的な判断をする際の基礎となる知識や概念を習得する。そして、それらを活用しながら考察・判断をして、その内容を表現することができる。</p>															
<p>3 評価規準</p> <p>【社会的事象への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界平和の実現を目指す国際社会の仕組みや活動、我が国の国際貢献に対する関心を高め、それらを意欲的に追究している。 <p>【社会的な思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界平和の実現を目指す国際社会の在り方や、我が国の国際貢献の在り方について、対立と合意、「国家の主権の尊重」と「国際的な協力」などの知識や概念から考察し、その過程や結果を適切に表現している。 <p>【資料活用の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際社会の仕組みや活動、国際情勢、我が国の国際貢献などに関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、情報を読み取っている。 <p>【社会的事象についての知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界平和の実現のためには、国際協調の観点から、国家の主権の尊重や国際的な協力が大切であることを理解し、それらに関わる具体的な知識を身に付けている。また、日本国憲法の平和主義について理解し、その知識を身に付けている。 															
<p>4 教材 本単元は主に国際政治に関する内容で、「国際社会と主権国家」、「国際連合」、「現代の国際情勢」、「日本の平和主義と国際貢献」を扱う。従来のこうした学習では、例えば国際機構名等の知識の習得に重点が置かれるなど、知識習得に偏重したものも多くみられた。しかしそれでは、社会科の目標である「公民的資質」の育成をすることにはならない。目標実現に向けて、国際社会や国際貢献の在り方について、対立や合意をもたらしたこれまでの議論・判断等を取り上げ、吟味させる。そのうえで、その在り方を一人ひとりに主体的に判断させる。</p>															
<p>5 主な学習活動 (1)単元の展開（全9時間）</p>															
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="167 1384 271 1444"></th> <th data-bbox="271 1384 933 1444">学習活動</th> <th data-bbox="933 1384 1428 1444">言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="167 1444 271 1534">第一次</td> <td data-bbox="271 1444 933 1534">「国際社会と主権国家」（1） ○国家間の相互の主権の尊重について理解する。</td> <td data-bbox="933 1444 1428 1534">・「国家の主権の尊重」という点から諸事象を解釈できるようにする。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="167 1534 271 1758">第二次</td> <td data-bbox="271 1534 933 1758">「国際連合」（4） ○国際機構の必要性や、国際連盟の問題点を知る。 ○国際連合の当初目指した仕組み、実際の仕組み、生じた問題などを調べる。そして、国際連合の在り方を考え、議論する。本時（2） ○国際連合やその他の国際機構、NGOなどによる様々な活動を知る。</td> <td data-bbox="933 1534 1428 1758">・国際連盟の学習を通して、国際機構に関する知識や概念を習得する。そしてそれらを活用して国際連合について調べ、特色を説明させる。 ◎国際連合の在り方に対する自分の考えをまとめて論述する。さらに議論を通して考えを深めさせる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="167 1758 271 1859">第三次</td> <td data-bbox="271 1758 933 1859">「現代の国際情勢」（2） ○戦後の国際的な対立や戦争などを、班で調べる。 ○調べたことを発表し、全体の内容をまとめる。</td> <td data-bbox="933 1758 1428 1859">・視点を明確にし、発表させる。 ・多様な内容について共通点や差異点から整理し、特色を説明させる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="167 1859 271 2004">第四次</td> <td data-bbox="271 1859 933 2004">「日本の平和主義と国際貢献」（2） ○平和主義を掲げている日本の国際貢献について知り、その在り方で議論となった点も知る。 ○今後の日本の国際貢献の在り方について考える。</td> <td data-bbox="933 1859 1428 2004">・平和主義との関連から日本の国際貢献を説明できるようにする。 ◎日本の国際貢献の在り方に対する自分の考えをまとめて論述する。</td> </tr> </tbody> </table>		学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	第一次	「国際社会と主権国家」（1） ○国家間の相互の主権の尊重について理解する。	・「国家の主権の尊重」という点から諸事象を解釈できるようにする。	第二次	「国際連合」（4） ○国際機構の必要性や、国際連盟の問題点を知る。 ○国際連合の当初目指した仕組み、実際の仕組み、生じた問題などを調べる。そして、国際連合の在り方を考え、議論する。本時（2） ○国際連合やその他の国際機構、NGOなどによる様々な活動を知る。	・国際連盟の学習を通して、国際機構に関する知識や概念を習得する。そしてそれらを活用して国際連合について調べ、特色を説明させる。 ◎国際連合の在り方に対する自分の考えをまとめて論述する。さらに議論を通して考えを深めさせる。	第三次	「現代の国際情勢」（2） ○戦後の国際的な対立や戦争などを、班で調べる。 ○調べたことを発表し、全体の内容をまとめる。	・視点を明確にし、発表させる。 ・多様な内容について共通点や差異点から整理し、特色を説明させる。	第四次	「日本の平和主義と国際貢献」（2） ○平和主義を掲げている日本の国際貢献について知り、その在り方で議論となった点も知る。 ○今後の日本の国際貢献の在り方について考える。	・平和主義との関連から日本の国際貢献を説明できるようにする。 ◎日本の国際貢献の在り方に対する自分の考えをまとめて論述する。
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点													
第一次	「国際社会と主権国家」（1） ○国家間の相互の主権の尊重について理解する。	・「国家の主権の尊重」という点から諸事象を解釈できるようにする。													
第二次	「国際連合」（4） ○国際機構の必要性や、国際連盟の問題点を知る。 ○国際連合の当初目指した仕組み、実際の仕組み、生じた問題などを調べる。そして、国際連合の在り方を考え、議論する。本時（2） ○国際連合やその他の国際機構、NGOなどによる様々な活動を知る。	・国際連盟の学習を通して、国際機構に関する知識や概念を習得する。そしてそれらを活用して国際連合について調べ、特色を説明させる。 ◎国際連合の在り方に対する自分の考えをまとめて論述する。さらに議論を通して考えを深めさせる。													
第三次	「現代の国際情勢」（2） ○戦後の国際的な対立や戦争などを、班で調べる。 ○調べたことを発表し、全体の内容をまとめる。	・視点を明確にし、発表させる。 ・多様な内容について共通点や差異点から整理し、特色を説明させる。													
第四次	「日本の平和主義と国際貢献」（2） ○平和主義を掲げている日本の国際貢献について知り、その在り方で議論となった点も知る。 ○今後の日本の国際貢献の在り方について考える。	・平和主義との関連から日本の国際貢献を説明できるようにする。 ◎日本の国際貢献の在り方に対する自分の考えをまとめて論述する。													

(2)本時の学習 (3・4 / 9 時間)

①目標

国際連合に関して、対立と合意、「国家の主権の尊重」と「国際的な協力」などの知識や概念から考察し、支持・合意が得られる思考や判断ができ、その過程や結果を適切に表現できる。

②本時の展開

- 前時を振り返り、史上初の世界的国際機構であった国際連盟にみられた問題、すなわち「国家の主権の尊重」と「国際的な協力」の両立の問題を確認する（具体的には国際連盟の参加国、表決法、制裁規定などでみられた問題点を確認する）。
- 国際連合は、世界平和の実現のために、どのような仕組みを目指すことで合意されたのか、そして実際にはどうなったのか、どのような問題が生じたのかを調べてまとめる。その際、国際連盟の学習で習得した知識や概念を活用しながら、国際連合について調べる。
- 現在の国際連合の仕組みについて、評価できる点と改善すべき点を考えたうえで、改善策や改善すべきとした理由を論述し、議論する。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

本単元は、中学校学習指導要領・社会（公民的分野）内容の(4)「ア 世界平和と人類の福祉の増大」に基づき設定した二つの単元のうちの一つである。本単元は国際政治、特に世界平和についての学習であるが、その中でも本時は国際連合を扱い、その特色と今後の在り方について考察している。国際連合については、内容(4)のAの中でも、「世界平和の実現と人類の福祉の増大のために」その「役割が大切である」とされている。

【言語活動の充実の工夫】－習得・活用すべき知識や概念の明確化－

授業では様々な言語活動が行われるが、公民的資質の育成を意識して特に重視しているのが、自分の考えを論述することである。そして、内容によっては議論もして考えが深められるようにしている。本単元では国際社会、そして日本に関して、それぞれ自分の考えを論述する場面を設定し（前述の5「(1)単元の展開」中の◎）、国際社会に関しては議論もしている。ただし、自分の考えを論述したり、考えに基づき議論したりする際は、一見熱心に取り組んでいるように見えても、実際には思い込みや個人的価値に基づいて判断し、内容的に無理があるものだったり、感情的なものになったりしやすい。こうしたことに陥らないよう、そして生徒の知的成長を促すものとなるよう、論述や議論などの言語活動に取り組む際には、次の二つが大切であると考えている。

- ① 授業で習得した、より確かな事実を活用したものとする。
- ② 授業で習得した、複数ある社会的価値に基づいて選択的判断をする。

これらを実現するためには、習得・活用すべき知識や概念の明確化が必要である。言語活動を計画するにあたり、まずは教師自身が授業での事実に知識や価値的知識をあらかじめ明確にしておくようにした。そして、授業で生徒にそれらを習得させた上で、論述・議論する場面を設定した。議論の際には右に示すような「議論用プリント」を使用した。このプリントは、議論前に自分の考えを論述する部分と、議論後に他者の考えを記入する部分からなる。こうしたプリントを使用することで、生徒が共通の論点を意識できるようにして、適切な論述、かみ合った議論を可能にしている。また、賛否を分けながら他者の合理的な考えを確認できるようにしている。

議論用プリント「国際連合の改善策」

A. 自分の考え —議論前に記入—	B. 賛成できる他者の考え —議論後に記入—	C. 賛成できない他者の考え —議論後に記入—
①国際連合をどのように改善すべきか？ (記入例) 安全保障理事会の常任理事国の拒否権を廃止すべき。	①どのように改善すべきと主張したか？ (記入例) 常備軍として国連軍を設置すべき。	①どのように改善すべきと主張したか？ (記入例) 安全保障理事会の拒否権をもつ常任理事国を、地域のバランスを考慮しながらもっと増やすべき。
②これまでのどのような状況を問題であるとして、上の改善策を考えたのか？ (記入例) 拒否権の行使により安保理があまり機能せず、世界の安全保障体制が不十分であった。	②これまでのどのような状況を問題であるとして、上の改善策を主張したのか？ (記入例) 軍事制裁を行う十分な実力が無かったため、国際連合が各地の紛争を治めることがあまりできなかった。	②これまでのどのような状況を問題であるとして、上の改善策を主張したのか？ (記入例) 安保理では常任理事国の多くが欧米の国であるため、欧米諸国に比べてアジアやアフリカなどの国々の意見は反映されにくかった。
☆自分やBのような主張をする人は、何を優先して考えているのか？ (「主権」・「協力」のどちらかのことを用いて述べること)		☆Cのような主張をする人は、何を優先して考えているのか？(「主権」・「協力」のどちらかのことを用いて述べること)
(記入例) 平和のための国際的な協力を、より積極的に進められるようにすることを優先している。		(記入例) 国家の主権の尊重を、より優先している。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：③、④、⑥ (※分類番号はP5表参照)